

● 「衆議院議員総選挙」(10月27日) 結果を含む政治情勢

- ・今回、政権与党の議席が大きく過半数割れしました。今後の政局の不安材料を減らし、安定した政権運営の下に国内政治が安定化することは、対外的な外交にも欠かせない要素であり、「内憂外患」に陥らないように肝に銘じたいものです。
- ・一方、米国大統領選挙は11月5日に投開票日を控えておりますが、日本を含む今後の世界情勢に多大な影響を与えかねない重要な行事であり、目が離せません。

● 「大阪勧業展」への出展(10月16日～17日) 「マイドームおおさか」にて

- ・当倶楽部が所属する「NPO協議会」は、製造業や一般サービス業でない団体として、昨年に続き出展しました。来場者への訴求力を含め、種々改良を加えて臨んだ結果、来場者との面談等は増加したと思っておりますが、今後も展示ブースの印象や反響を更に高める努力を重ねたいと思っております。

● 大谷効果(続編)

- ・前月号では、大谷選手の自然体の振る舞いと明るさについて触れました。
- ・今回は、大リーグのワールドシリーズで第3戦までテレビ観戦した感想を述べます。第2戦での左肩負傷の後に臨んだ第3戦のスタメン出場には、多くの大リーグファンの注目を浴びました。その中で、彼は打棒こそ振るわずとも、二つの四死球による出塁を含め、チームの勝利に大いに貢献したと思っております。彼の出場による相手チームへの心理的影響、自チームに与える絶対的な存在感には、改めて強い印象を受けました。

< 11月の送付物 >

- ① 日本一明るい経済新聞 11月号
- ② ビープラッツプレス 最新号
- ③ 年会費納入のお願い(該当者には別途郵送の予定です。)



明るいシステム
倶楽部
ホームページ

< 11月以降の主な活動予定 >

11/2(土)	気楽な ZOOM サロン(47)	当倶楽部会員専用の交流の場です	20:00～21:30
11/8(金)	「輝く未来の宝探し」(4)		20:00～21:30
11/20(水)	役員会議(52)	「明るいセミナー」の今後について	14:00～15:00
11/20(水)	明るいシステム検討会議(35)	「明るいシステム」の整理・分析	15:20～16:20
12/2(月)	第66回 明るいセミナー	大阪産業創造館4階 イベントホール	14:00～16:30

AKS 市民大学 (ZOOM 形式)

11/13(水)	菊池教室(46)	感性を育む和学講座	20:00～21:30
11/23(土・祝)	宮崎教室(50)	「言葉の力で問題を解決！」	20:00～21:30
11/26(火)	柴原・松居教室(39)	「みんなで考える明るい職場」	20:00～21:30

「地域での交流・コミュニケーション」第4弾

明るいシステム倶楽部会員 黒田 能弘 (よしひろ)

まだ、真夏日の続く9月にも、小生は地域のボランティアに多忙な日々であった。

例年なら、小生の大好きな甲子園での高校野球観戦が、決勝戦の終わる頃、ツクツクボウシが鳴き始め、速足で秋に向かっていった記憶があったのですが・・・。

今年はどうだろう？ あなた様もお元気でお過ごしのことであらうでしょうか・・・？

そんな 30℃を超える酷暑の日々を、小生の手帳にはギッシリと予定が組み込まれていたのです。それは、小生が地域で参加した健康づくり“パンジーの会”が、9月末頃と第36回中央区民まつりに協賛のする形で出店コーナーを設け（これは10月20日の予定）、毎年の行事となっていたのです。その打ち合わせと準備が数回あって、時にはその後、3名の高齢女性（いづれもおひとりさま）と3名の高齢男性が仲間となって、反省会兼慰労会と称し、ビールで乾杯したり会話が飛び交ったり、まるで同窓会みたいに盛り上がっているのです。

また、「中大江公園愛護会」では、町会ごとに「水やりと美観を保つお世話」の当番が回ってきますし、大阪市建設局の指導により月1回は合同でのクワを使って雑草刈りをしたり、排水溝の泥水除去といった肉体労働もあって、畑仕事みたいなこともやっています。高齢者には、とってもシンドイのですが・・・。9月28日の時には、近くの少年・少女ソフトボールチーム・30名くらいが手伝いに来てくれ、小生たちが刈った雑草を収集して、大きめの袋に詰め運んだりもしてくれました。少子・高齢化がここでは、ウソのようでした。今回も、写真でお見せした方が訴求力があるかと考え、数点掲載させていただきました（赤いジャケットは郵便局員さん、右下はわたしです）。



「生前活！アドバイザー」 兼 NPO法人高齢者・障がい者後見人の会 代表

◆西国三十三所札所巡り旅 (27)

①総本山善通寺 四国七五番札所 (香川県善通寺市)

明るいシステム倶楽部会員：阿久根芳臣

行程：大阪市内から約 220 km (阪高神戸線～淡路鳴門道(国道 28 号)～高松自動車道
(今回は和歌山ルートで南海フェリーを利用して片道 5 時間となる))

車での所要時間は高速を乗り継いでほぼ 3 時間、全線オートパイロットで行ける。距離も往復で 440Km 程なので無充電で日帰りでも行けそうなのだが“そこはそれ”年金世代としては往復 6 時間の乗車は自動運転とはいえ結構きつい。そこでかなり前から思案を重ねた結果、神戸地域の渋滞を避けて往復とも和歌山港～徳島港の南海フェリーを使うことにした。この航路も“瀬戸内海航路”らしく、揺れも少なく 2 時間の船旅は快適であった。

但し乗船料は同乗者 1 名を入れて車輛航送運賃 ¥12500 (Web 予約割引) だ。往復利用で旅館代に匹敵するのでかなり贅沢ではあるが大阪と高松の中間地点で 2 時間休めるのは非常にありがたい。どうせならと 1 泊し、近くの金毘羅山へも参ることにしたので随分と楽な旅程となった。(2 か所周るので頭の中では半額になった気分) 単純か!!

善通寺は弘法大師(空海)の誕生の地で、唐の修行から帰った空海が先祖の弔いのため建設した真言宗最初のお寺です。弘法大師三大霊場に数えられる札所である。樹齢千年以上の「大楠」や総けやき造りの「五重塔」、釈迦堂といった伽藍が立ち並ぶ広大なお寺です。

今回、西国三十三所霊場巡りからはなれて四国まで来たのは、今年が弘法大師空海御誕生 1250 年の記念の年であるからです。774 (宝亀五) 年 6 月 15 日、ここ善通寺でお生まれになりました。(幼名：真魚(まお))

本年 1 月から 3 霊跡巡礼スタンプラリーに参加して、③御入定の地「高野山金剛峰寺」②立教開宗の地「教王護国寺」(東寺)と巡ってきており、今回①御誕生の地「善通寺」と成って結願したしだいです。(善通寺の詳細は Web をポチっと)

PS ; 妻は高松が初めてということで“讃岐うどん”の有名どころにも寄ってきました。1 軒目は歌手「JUJU」が SNS で広めた「日の出製麺所」(坂出市富士見町) お昼前の 11 時半ごろ着いたが、もうすでに百人ぐらいが 4 列で歩道から隣の駐車場まで並んでいた。でも、ほとんどの客が釜玉うどん 1 択なので 30 分ほどで順番がきた。今回 3 件の店を回ったがここは 2 番目に美味しかった。(釜玉 ¥200)

広大な敷地の総本山善通寺 (後方が香色山)



日の出製麺所 (後方は讃岐富士いのやま)



②金刀比羅宮 ご祭神 大物主神・崇徳天皇（香川県琴平町）

明治初年の神仏分離以前は金毘羅大権現と称し、通称は「讃岐のこんぴらさん」

行程：総本山善通寺から 10 k m（国道 319 号）・休暇村五色台から 47 k m（60 分）

海の神様で知られる「金刀比羅宮」。

神域の総門である「大門」まで 365 段。高松城主 松平頼重から寄進されたもので、大門をくぐると約 800 年前から続いている五人百姓が飴を売っており境内で唯一商売を許されているという。

「御本宮」まで 785 段。ご祭神の大物主神と崇徳天皇を祀る桧皮葺きの見事な社殿である。ここまでは皆さんよくご存じであるがけっこう健脚でないとなかなかたどり着かない。

しかし、まだ上があり「白峰神社」まで 923 段。朱塗流造、桧皮葺きの本殿に崇徳天皇の御母の待賢門院をお祀りしている。さらに「巖魂神社」（奥社）まで 1368 段。金刀比羅宮の教祖である巖魂彦命をお祀りしている。（[金刀比羅宮の詳細は Web をポチっと](#)）

さて、今を去ること 45 年ぐらい前、オイルショックから立ち直りつつ、右肩上がりの昭和の元気な時代に私も社員旅行でこの下の温泉街までやってきた。当然、本四連絡橋はまだその槌音も聞こえていない頃、観光バスで「宇高国道フェリー」を使って四国まで渡ってきたと思いますが、若気の至りでバスの車内で先輩にそそのかされてビールや酒やと宴会していた為、道中はあまり記憶にございません。覚えているのはバスから降りて大変賑やかな門前町の参道の階段を何十段か上って“give up”したことです。それが残念で仕方なくリベンジを誓っていたのです。“綾小路きみまろ”風に云うと「あー、あれから 45 年」。今回せっかく来れたにも関わらず私にその体力が残っていなかったのがまた残念でなりません。しかし、もう時代が違います。今の「こんぴらさん」はネットで事前予約すれば「御本宮」785 段目まで裏から車で登れます（但し、30 分に 1 台の通行許可車だけ）

思い起こせば昭和のその当時、旅館に着いてから上司の大所長が万札 5 枚ぐらいを折り曲げて「これで遊んでこい」と現金をくれたことがなつかしい思い出だ。当時私の初任給が 12~13 万円だったと思うのだが、後ろにそっくり返るぐらい驚いた。同じ“かごんま”の出身なのでかして、よくかわいがってくれた。当然私もそれにこたえるべく、同僚の 2 倍は働いた。その豪傑な大所長も支店内ではすこぶる優秀な成績を残していたが 50 を過ぎて早くに亡くなった。酒の飲み過ぎか？国会の先生とも交流していたのでストレスも相当なものだったか？ハラスメントにもきびしい今のご時世。“昭和も遠くなりにはけり”だ。

●1 番おいしかった讃岐うどん店→「純手打ち よしや」（丸亀市飯野町東二）でした。

駐車場から平行移動で来た御本宮 最後の 133 段を試しに降りた 下へと続く恐怖の 785 段



<コミュニケーションは聴くことから始まる！>

明るいシステム倶楽部 理事 宮崎 英二



NHKのTED=スーパープレゼンテーション=という番組で、良きコミュニケーションは傾聴することから始まると、アーネスト・シローリ氏の講話が紹介されていました。コミュニケーションについて、思わず拍手をするほど内容の濃いプレゼンテーションでしたので、それを紹介します。タイトルは「人を助けたいなら、黙って話を聴け」

A・シローリ氏はNGOの技術協力スタッフで、アフリカの食糧改善の活動を担当しました。自分の持っている知識と技術で、飢えからの解放が彼の夢でした。ザンビアの広大な肥沃な土地に、イタリアの野菜を栽培する計画を立て、トマトやズッキーニなどを植えようとしていました。しかし現地の人たちは関心を示さないの、お金を払って手伝ってもらいました。そうでもしなければ誰も動かなかったのです。

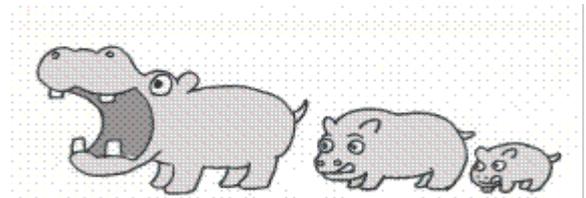
「肥沃な大地があるのに農業をしないのはなぜ？」と思いましたが、「知識も技術も持っていないのだから仕方ない・・・でもこれでうまくいく、彼らを飢えから救えるのだ」と、思いながら畑を耕し、種を蒔き、成長を待ちました。

私は彼らに「ね、簡単でしょ」といいながら、大きく育ってくるトマトを見せて、収穫の出来る日を楽しみにしていました。どんどん大きく実ったある朝、畑を見て目を疑いました。

「あぁーなんということか!？」トマトは全部なくなっていたのです。こともあろうに昨夜 200 頭のカバが大挙してやってきて全部食べてしまったのです。

「なんてことだ！」と私は落胆と怒りの声を上げました。彼らは言いました。

おう！大好物のトマトだぜ！



「だから農業はしないのさ」

「それなら初めに言ってくれよ」

「いや、なにも聞かれなかったし」とあっさり答えるのです。

私は呆然として「失敗したのはイタリア人だけなのか」

「いや、アメリカ人も、フランス人も来た」

そうです。私は彼らの話を聞こうともせず、こちらの考えが正しいから教えてやるという思い上がったおせっかい野郎だったのです。こうした学びのおかげで、援助活動でもっとも重要なことは「相手を尊重すること」「相手からの働きかけを待つこと」を身につけることができました。そして、「ひたすら相手の成長に尽くすこと」を考えられるようになったのです。

ヒューマニクス研究所／ハピネス心理学 代表